

令和元年度広島県大学図書館協議会事業報告

1. 会議

1. 令和元年度総会

日時：6月28日（月）13：30～17：00

会場：呉工業高等専門学校 視聴覚教室（当番館：呉工業高等専門学校図書館）

参加：加盟館 22 機関 38 名 欠席：加盟館 3 機関 3 名

2. 幹事館連絡会議 第1回 5月27日

3. 研修企画委員会 第1回 5月28日

4. 広島県内図書館連絡会議 1月23日

5. 共同リポジトリ委員会 第1回 3月6日 ※新型コロナウイルス感染予防のため中止

2. 研修会

第1回

日時：令和元年10月17日（木）～18日（金）

会場：広島大学東広島キャンパス 学士会館2階レセプションホール

主催：中国四国地区大学図書館協議会

共催：広島県大学図書館協議会

テーマ：「大学図書館における防災・減災・復旧を考える」

第2回

日時：令和元年11月29日（金）13:30～17:00

会場：広島市立大学 情報科学部棟別館 「交流ラウンジ」

テーマ：「先進事例に学ぶ学生協働：継続し発展させるために」

3. 事業

1. 協議会ホームページの運用

ひとめマップの掲載、総会議事録、研修会報告、ビブリオバトル結果。

2. 共同リポジトリ（HARP）の運用

参加機関数 16 機関

3. 「ひとめでわかる広島県大学図書館協議会（通称：ひとめマップ）」の更新

4月更新照会后、5月更新。

4. 50周年記念事業 準備

・記念式典・祝賀会実行委員会

令和元年6月28日（金）18：00～20：20 キックオフミーティング

以降メールで連絡 会場予約、プログラム案決定

・50周年記念誌編集委員会

令和元年7月8日（月）13:00～14:40 キックオフミーティング

令和元年11月27日（水）10:00～12:00 記念誌座談会

令和2年2月20日（木）14：00～15：50 記念誌目次、レイアウト等決定

5. ビブリオバトル広島地区予選・決戦の開催

「全国大学ビブリオバトル2019～首都決戦～」に広島県内の大学生・大学院生が参加できるような環境を整えることを目的に協議会事業として(令和元年度総会承認)以下の通り実施した。

(1) 地区予選

広島県大学図書館協議会加盟館 8 館が地区予選を主催。地区決戦出場のバトラーを選出。(開催日順)

開催大学	チャンプ本	バトラー	参加者
広島大学	『虚数の情緒』(吉田 武 著)	7名	19名
広島商船高等専門学校	『本田宗一郎 100 の言葉』(別冊宝島編集部 編)	5名	5名
福山大学	『真実の10メートル手前』(米澤 穂信 著)	4名	20名
広島文教大学	『神様の願いごと』(沖田 円 著)	4名	30名
広島工業大学	『人生ドラクエ化マニュアル』(JUNZO 著)	6名	26名
県立広島大学	『線は、僕を描く』(砥上 裕将 著)	4名	29名
広島経済大学	『毎年、記憶を失う彼女の救いかた』(望月 拓海 著)	4名	43名
広島市立大学	『恋文の技術』(森見 登美彦 著)	5名	40名

(2) 地区決戦

尾道市立大学小川研究室・啓文社連合(中国Cブロック)、広島県立図書館(中国Dブロック)が地区決戦を主催。

広島県大学図書館協議会加盟館は共催館として地区予選優勝者のバトラーを派遣し、交通費を支弁した。Dブロックで加盟館(広島経済大学)のバトラーが優勝した。

ブロック	チャンプ本	発表者所属	バトラー	参加者
中国C	『少年の名はジルベール』(竹宮 恵子 著)	尾道市立大学	7名	51名
中国D	『毎年、記憶を失う彼女の救いかた』(望月 拓海 著)	広島経済大学	8名	64名

(3) 本戦

加盟館(広島経済大学)から地区決戦優勝者のバトラー1名を派遣。

賞	書名	発表者所属	バトラー
グランドチャンプ本	『天国からはじまる物語』(ゼヴィン, ガブリエル 作)	群馬大学	36名
準グランドチャンプ本	『少年の名はジルベール』(竹宮 恵子 著)	尾道市立大学	
ゲスト特別賞	『春宵十話』(岡 潔 著)	大阪大学	

令和元年度広島県大学図書館協議会総会議事要録

日時:令和元年 6 月 28 日(金) 13:30～17:00

会場:呉工業高等専門学校 視聴覚教室

参加:加盟館 22 機関 38 名

欠席:加盟館 3 機関 3 名

1. 開会 当番館 呉工業高等専門学校

2. 挨拶 田中 誠 (当番館 呉工業高等専門学校図書館 館長)

古澤 修一 (代表幹事館 広島大学図書館 館長)

3. 議長選出

慣例により、当番館の田中図書館長を選出した。

4. 報告

(1) 平成 30 年度事業報告について

代表幹事館の広島大学 岡田グループリーダーから、平成 30 年度の事業として総会、各委員会等の開催、研修会等について資料 1, 2 に基づき報告があった。

(2) 平成 30 年度研修企画委員会活動報告について

研修企画委員長の広島文教大学 石井係長から、平成 30 年度の活動について資料 3 に基づき報告があった。

(3) 平成 30 年度共同リポジトリ委員会活動報告について

共同リポジトリ委員長の福山市立大学 辻主査(統括)から、平成 30 年度の活動について資料 4 に基づき報告があった。

(4) 平成 30 年度広島県内図書館連絡会議について

広島県内図書館連絡会議委員館の比治山大学 福田図書課長から、平成 31 年 2 月 6 日に広島県立図書館において開催された連絡会議について資料 5 に基づき報告があった。

5. 各館活動報告(各館, 2 分以内)

各参加機関の代表から、平成 30 年度に取り組んだ教育支援, 研究支援, 社会貢献, 管理運営について資料 6 に基づき報告があった。

6. 協議

(1) 平成 30 年度決算書 (案) 及び監査報告について

代表幹事館の広島大学 上田副グループリーダーから、平成 30 年度の決算 (案) について資料 7 に基づき報告があった後、監査館のエリザベト音楽大学 宮下図書館事務職員から資料 8 に基づき監査報告があり、原案どおり承認した。

(2) 令和元年度事業計画 (案) について

代表幹事館の広島大学 岡田グループリーダーから、令和元年度の会議や研修会等の予定について資料 9 に基づき説明があり、原案どおり承認した。

(2-1) ビブリオバトル広島地区予選・決戦の実施 (案) について

代表幹事館の広島大学 岡田グループリーダーから、ビブリオバトル広島地区予選・決戦の実施について資料 10 に基づき提案があり、原案どおり承認した。

(3) 広島県大学図書館協議会創立 50 周年記念事業 (案) について

代表幹事館の広島大学 郷原図書館部長から、広島県大学図書館協議会創立 50 周年記念事業について資料 11 に基づき提案があり、原案どおり承認した。

(4) 令和元年度予算書 (案) について

代表幹事館の広島大学 上田副グループリーダーから、令和元年度予算書 (案) について資料 12 に基づき提案があり、原案どおり承認した。

(5) 令和元年度役員館・委員館の選出について

代表幹事館の広島大学 福山図書学術情報普及グループリーダーから、役員館・委員館の選出について会則及び資料 13 に基づき説明があり、以下のとおり選出した。

(5-1) 幹事館の選出

幹事館は、今年度まで任期のため改選はない。

(5-2) 幹事館以外の役員館・委員館の選出

- ・監査館は、輪番で日本赤十字広島看護大学とした (広島県大学図書館協議会申合わせ事項の 3)。
- ・研修企画委員館は、今年度まで任期のため改選はない。
- ・共同リポジトリ委員館は、任期 2 年で今年度が改選の時期となる (広島県大学図書館協議会共同リポジトリ委員会内規の 6)。役員会の推薦により、広島大学、広島文教大学、福山市立大学、日本赤十字広島看護大学、海上保安大学校、広島都市学園大学を選出した (広島県大学図書館協議会共同リポジトリ委員会内規の 3)。委員長館は福山市立大学を互選で選出した (広島県大学図書館協議会共同リポジトリ委員会内規の 4)。
- ・広島県内図書館連絡会議委員館は、比治山大学、広島文化学園大学、広島市立大学に推薦があり了承した (広島県内図書館連絡会設置要項第 4 条)。

(6) 次期当番館について

代表幹事館の広島大学 福山図書学術情報普及グループリーダーから、次期総会当番館について資料 14 に基づき説明があり、輪番で広島商船高等専門学校とした。

7. 承合事項

(1) 図書館の利用者を増やすための取組み及びその成果（福山平成大学提出・資料 16）

福山平成大学 平松図書主任から資料 15 に基づき提出理由の説明と謝辞があった。

(2) 開架スペース等が手狭になったことなどにより図書等を廃棄する場合のルールや方針等について（呉工業高等専門学校提出・資料 17）

呉工業高等専門学校 河野学生課長から資料 15 に基づき提出理由の説明と謝辞があった。

8. 閉会

次期当番館の広島商船高等専門学校 風呂本図書館長から当番館受託と閉会の挨拶があり、閉会した。

資料

平成 30 年度広島県大学図書館協議会事業報告	資料 1
平成 30 年度広島県大学図書館協議会総会議事録	資料 2
平成 30 年度研修企画委員会活動報告	資料 3
平成 30 年度共同リポジトリ委員会活動報告	資料 4
広島県内図書館連絡会平成 30 年度会議議事録	資料 5
承合事項 平成 30 年度の図書館活動について	資料 6
広島県大学図書館協議会平成 30 年度決算書（案）	資料 7
監査報告書	資料 8
令和元年度広島県大学図書館協議会事業計画（案）	資料 9
ビブリオバトル広島地区予選・決戦の実施について（案）	資料 10
広島県大学図書館協議会創立 50 周年記念事業（案）	資料 11
広島県大学図書館協議会令和元年度予算書（案）	資料 12
広島県大学図書館協議会役員館等一覧	資料 13
総会会場順次表・研修実施会場年次表	資料 14
承合事項 提案理由	資料 15
承合事項 1 図書館の利用者を増やすための取組み及びその成果	資料 16
承合事項 2 図書等を廃棄する場合のルールや方針について	資料 17

以 上

令和元（2019）年度研修企画委員会活動報告

1. 研修会

第1回

日 時：令和元年10月17日（木）～18日（金）

場 所：広島大学東広島キャンパス 学士会館2階レセプションホール

テーマ：「大学図書館における防災・減災・復旧を考える」

第1日目

講演 1：『平成28年熊本地震に対する熊本大学附属図書館の対応について』

講 師：濱崎千雅氏（熊本大学教育研究支援部図書館課副課長）

講演 2：『平成30年7月豪雨災害における広島大学文書館の対応について』

講 師：石田雅春氏（広島大学75年史編纂室准教授）

事例報告：『平成30年7月豪雨災害時の対応と近年における防災訓練の実施状況について』

講 師：濱 知美氏（広島大学中央図書館 主査）

事例報告：『「応接マニュアル」の整備と運用について』

講 師：佐々木 奈三江氏（徳島大学附属図書館 総務係長）

事例報告：『平成26（2014）年豪雨災害の当館被災状況について』

講 師：石井 美絵氏（広島文教大学附属図書館 係長）

第2日目

ワークショップ：「大規模災害時、その時図書館はどう動くか ～ワークショップで考える
災害時の対応及び事前準備について」

講 師：鈴木 光氏（一般社団法人減災ラボ代表理事）

参 加：48機関55名

第2回

日 時：令和元年11月29日（金）13:30～17:00

場 所：広島市立大学 情報科学部棟別館 「交流ラウンジ」

テ ー マ：「先進事例に学ぶ学生協働：継続し発展させるために」

講演：「目指せ！共読アスリートー共読ライブラリー流、学生協働のカタチー」

講 師：立木 加奈子氏（帝京大学メディアライブラリーセンター）

中嶋 友 李氏（広島経済大学図書館）

事例報告：「図書館ピア・サポーターのこれまで」

講 師：門脇 直哉氏（広島修道大学図書館 書記）

事例報告：「合言葉は『身の丈にあった』」

講 師：福田 房子氏（比治山大学図書館 図書課長）

参 加：13機関23名

アンケート結果

<http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/haul/wp-content/uploads/2019/12/0102quest.pdf>

2. 評価と課題

第1回

1日目は熊本大学附属図書館から熊本地震の対応および広島大学文書館から豪雨災害により水没した資料のレスキュー活動についての講演があった。また広島大学から防災訓練について、徳島大学からは緊急時のマニュアルについて、広島文教大学より浸水からの復旧についての事例発表があった。2日目は減災ラボの鈴木氏にワークショップのファシリテータをしていただき、災害時の自館での避難経路や危険個所の確認などを行った。1日目に様々な災害による被災状況とその復旧作業、および予防策の実践についての事例を知り、そのあとで実践的なワークショップを行ったため、参加者はより身近な問題として減災や防災をとらえられたのではないかと思う。アンケートでは、回答者のうち90%が講演と事例発表の内容は有意義であった、79%がワークショップで有意義な話し合いができたと回答した。その他にも「危機管理を改めて意識することができた」「実践的な内容で分かりやすく参考になりました」「自館におきかえてのリスクを改めて感じ、どう対策すべきか持ち帰ってミーティングしたい」などの意見があり、この研修会が今後起こりうる様々なリスクに備える意識の啓発とそのリスクへの対応策を考える良いきっかけになったのではないかと思われる。

第2回

共読ライブラリーを担当されている帝京大学メディアライブラリーセンターの立木氏と2019年3月まで帝京大学メディアライブラリーセンターに勤務されていた広島経済大学図書館の中嶋氏に、成功事例やその方法、苦勞した点について講演していただいた。その後、広島修道大学と比治山大学の2館から活動内容や問題点を報告していただいた。

アンケートの回答を見ると、講演では「参考にさせていただくことがたくさんあった。」「活動のかなりふみいった部分まで分かりやすく説明していただけてありがたかったです。」などの意見があった。内容については「非常に有意義だった」が72%、「有意義だった」が22%であり、好評であった。また、事例報告では、「きちんと理念と目的をかかげられているのはすばらしいと思いました。」「無理せず、というのに大変共感しました。」「身の丈にあった、という言葉は意識したいと思いました。」などの感想があった。内容について、「非常に有意義でだった」が65%、「有意義であった」が35%と好評だった。

その他の感想として、「グループワークは各館の思いが聞けて良かった。」「とても勉強になりました。企画・立案に役立てたいと思います。」などもあり、総じて好評であった。

令和元年度共同リポジトリ委員会活動報告

下記委員会を予定していたが、新型コロナウイルス感染防止のため中止となった。

HARP 参加機関数

16 機関

第 1 回委員会・勉強会（拡大）

【日 時】 令和 2 年 3 月 6 日（金）14 時 00 分～17 時 00 分

【場 所】 広島市中区東千田町一丁目 1 番 89 号

広島大学東千田キャンパス 東千田未来創生センターM303 講義室

【議事】

1. 報告・協議

(1) 自己紹介と各館のリポジトリに関する近況紹介

(2) 令和元年度執行状況及び次年度予算について

(3) ISSN 表示実装報告—情報提供・意見交換—

2. 勉強会

・JPCOAR スキーマ対応デモサイト紹介

広島県内図書館連絡会令和元年度会議議事要録

1. 日 時 令和 2 年 1 月 23 日（木）午前 10 時 0 分～午後 0 時 12 分
2. 場 所 広島県立図書館応接室
3. 出席者
 - (1) 委 員
比治山大学図書館 図書課長 福田房子
広島文化学園大学図書館 係長 弥富純子
広島市立大学附属図書館 主幹 出原陽子
広島市立中央図書館 事業課課長補佐(事)館内サービス係長 千原真純
はつかいち市民図書館 副館長 藤村泰代
広島県立図書館 非常勤職員 中丸美似
 - (2) 事務局
広島大学図書館 図書学術情報普及グループリーダー 福山栄作
広島大学図書館 図書学術情報企画グループ主任 山下真佑美
広島県立図書館 事業課長 平田文子（広島県公共図書館協会事務局次長）
4. 開会・挨拶
広島県立図書館 平田文子 広島県公共図書館協会事務局次長
5. 議長選出
事務局が、広島市立中央図書館 千原真純氏を推薦し、承認された。
6. 議題
 - (1) 広島県内大学図書館及び広島県内公共図書館等の連携について
広島県公共図書館協会事務局次長（以下、事務局次長）が、資料 1 に基づき「広島県内大学図書館等との連携について」の事前アンケート結果（広島県公共図書館協会加入館回答：以下、公共）を説明した。委員からは以下の意見があった。
 - (ア). 貸出 410 件・借受 212 件と件数が多いが、物流のしくみはどうなっているのか。（広島市立大学）
 - （広島大学図書館・広島市立大学図書館との相互協力により）週に 1 度、車で集配（広島市立中央図書館）
 - 県立図書館との図書館間相互貸借の場合、運搬費は県立図書館で負担。インターネット予約貸出館に対しても同様。（広島県立図書館）
 - (2) 利用者ガイダンスの実施状況について
事務局次長が、資料 2-1 に基づき「利用者ガイダンスの実施状況について」の事前アンケート結果（公共）を説明した。続けて広島大学から資料 3-1 に基づき事前アンケート結果（広島県大学図書館協議会加盟館回答）を説明した。委

員からは以下の意見があった。

- (ア). 公共図書館でガイダンスを実施する場合、参加者はどのように集めるのか。(比治山大学)
- 社会科見学ガイダンスの場合、学校単位で申込がある。(はつかいち市民図書館)
 - 情報検索講座の場合、近年利用者もコンピュータ端末の扱いに慣れており、あまり応募はない。今後は聞蔵や日経テレコンなどの個別のDB紹介が望まれるのかもしれない。(広島市立図書館)
 - 教員向け講座への応募は多いが、端末不足の状態。(広島県立図書館)
- (イ). ウィキペディアタウンの実施はどのようなだったか。(広島大学)
- 参加者からは高評価だった。フィールドワークを通して郷土についての知識を深め、さらに世界に向けて情報を発信できたためではないか。郷土資料も活用してもらえた。若者を対象として実施したので、コンピュータの扱いにも慣れてきた。(広島市立図書館)
 - 大学ではレポート作成の際の情報源としてウィキペディアは適当でないと教育するが、郷土の見直しツールとして使用するのはいいと感じた。(広島大学)
- (ウ). 大学図書館のガイダンスでは論文検索案内も行うのか。(広島市立図書館)
- 学年や利用者の知識量に応じて随時説明する。(広島市立大学)
 - 使用しない知識は定着しないので、目標を細かく設定して少しずつ説明する。レポートやプレゼンなど先生の要望に応えた講習も行う。(広島大学)
 - 1年生に対しては図書館利用に必要な知識のみ与える。以降の説明は先生と相談して内容を決める。(比治山大学)
 - 利用者に合わせてガイダンスをするのがよい。就活や公務員試験対策など、先生のニーズも聞いて対応する。(広島文化学園大学)
- (エ). 調べ案内は作成しているか。(広島市立図書館)
- ガイダンス使用資料を配布コーナーに置いている。(広島文化学園大学)

(3) 多文化サービスの実施状況について

(2)と同様、事務局次長が資料 2-1、広島大学が資料 3-1 に基づき、各加盟館の回答を説明した。委員からは、以下の意見があった。

- (ア). 公共図書館における外国人利用者は多いのか。(広島大学)
- 外国人自体はあまり多くない。外国研究をしていたり、家族や知人に外国人がいたりする日本人の利用はある。(広島県立図書館)
 - 地域の特色があり、例えばマツダの近くの安芸区図書館ではブラジル人がいるため、ポルトガル語やスペイン語の資料を収集している。文化に

触れる機会を提供するという目的もある。(広島市立図書館)

- (イ). 大学では多文化サービスを実施していない館が 15 館あるが、あまり対応していないのか。(広島市立図書館)

→大学図書館を利用する外国人＝留学生であり、日本語と英語に対応できることが前提となるため。ただし近年当館では中国人留学生が増加しているので、緊急時には中国語表記のお知らせを出すこともある。(広島大学)

→日本語ができることを前提に留学生を受け入れているところが多いのではないか。(広島市立大学)

- (4) 電子書籍・雑誌の導入状況について

事務局次長が、資料 2-2 に基づき「電子書籍・雑誌の導入状況について」の事前アンケート結果（公共）を説明した。委員からは、以下の意見があった。

- (ア). 電子書籍については、非来館者へのサービスや語学学習では有効と思うが、初期投資とコンテンツが限られるため導入していない。TRC-DL がプラットフォームとして採用されているのは指定管理者が導入している。(広島市立図書館)

→電子書籍は品揃えが豊富ではなく、当館の収集方針にもそぐわないため、プラットフォームを選択するのが困難である。(広島県立図書館)

- (イ). 当館では英語多読本や授業で指定された本の貸出率が高い。多くの利用が見込まれる本は電子書籍での取り扱いに向いている。(広島大学)

→当館は今年初めて丸善の試読サービスを利用した。(広島文化学園大学)

→当館も利用している。紙の書籍だと利用者間で取り合いになるが、電子だと時間差ダウンロードで対応できてよい。また納品が必要ないので、予算調整にも便利。(広島市立大学)

- (5) 防災・減災対策について

事務局次長が、資料 2-2 に基づき「防災・減災対策について」の事前アンケート結果（公共）を説明した。委員からは、以下の意見があった。

- (ア). 避難訓練マニュアルは作成しているが、建物は（公財）ひろしま産業振興機構が管理しているため、自治体との連携は特にしていない。避難施設には指定されている。被災時の持ち出し資料リストを作成した方がよいのではという意見はある。(広島県立図書館)

- (イ). 津波の際、避難時は市民病院（浸水時緊急避難施設）に誘導するとしている。豪雨災害で浸水したり、地震で書庫の蔵書が大量に落ちたりしたことがある。地震が起きた時の利用者の反応も、すぐ避難する人、平気な人とまちまちである。訓練はしているが、どのような対応が正解か判断が難しい。(広島市立図書館)

(6) 利用者対応について

事務局次長が、資料 2-2 に基づき「利用者対応について」の事前アンケート結果（公共）を説明した。委員からは、以下の意見があった。

(ア). 問題のある利用者を出入禁止にした館が 1 館あるが、どのようにしたのか。（広島大学）

→当館ではないが、レファレンス担当は若い女性が多く、利用者からつきまとい行為がみられる場合もある。図書に関する質問以外は受け付けられない旨を柔らかい表現で伝えるようにしている。（はつかいち市民図書館）

(イ). 高圧的に感じる態度をされたり、延々と話し続けたりされる利用者がある。職員に女性が多いこともあるのかと思うことがある。（広島市立図書館）

→児童サービスを担当しているので、あまりそういった場面を経験したことはない。大声を出す利用者の対応に苦慮したことはある。（広島県立図書館）

(7) その他

(ア). 広島県大学図書館協議会から広島県立図書館への照会について

事務局次長が、資料 4 に基づき「広島県大学図書館協議会から広島県立図書館への照会について」の回答を説明した。

(イ). 来年度の協議テーマについて

事務局間で検討することにした。

(ウ). 「来いぶらりネット」について報告

事務局次長が、「来いぶらりネット」について以下の報告を行った。

- ・登録館は県内 23 市町と 6 大学図書館
- ・新規参加は保留中
- ・現在登録館においても、図書館システムを更新し、プロトコルが ICCAP でなくなった場合は、横断検索への接続が有償となる場合がある。県立図書館での費用負担は不可。
- ・2022 年度における県立図書館システム更新に向けて、「来いぶらりネット」の拡充と維持について検討中。

(8) 閉会・挨拶

広島県立図書館 平田文子 広島県公共図書館協会事務局次長